

## 第2章 2015/16年ソムB予備調査報告

小川有子

### 1. 2015/16年ソムB予備調査の実施に至るまで

2015年は本来、第5回目のXóm B集落のすべての世帯を対象とした社会経済調査（以下Xóm B全戸調査、悉皆調査）を実施する年であった。しかし2011年12月に17年にわたってバッコックの研究に携わり研究リーダーを務めていた桜井由躬雄教授が逝去され、2009年、2010年の調査を最後にバッコックの現地調査は中断していた。

2013年は2003年に行われた土地の交換分合の有効期限10年が経過し、交換分合の調整が行われる年であり、その意味でも2015年の全戸調査実施は非常に重要な課題であったが、調査年が迫る中、調査団の再結成に動き出したのはようやく2014年末のことであった。2015年春、一部の関係者が京都大学東京オフィスに集合し、2015年調査をどのように実施すべきかについて議論した。

1994年にバッコック調査が開始されて以来、Xóm B全戸調査は5年に1度実施されてきた。初回の1995年は、学部生を含む日本人の調査団メンバーが各自各戸を訪れて直接インタビューを行い、その結果を自分たちで入力したが、2000年以降の調査ではコックタイン合作社に依頼して村人がインタビューを行い、彼らが調査票に記入する方式となった。（この間の経緯については『百穀社通信』第12号第3章、大野美紀子「2000年 Bach Coc アンケート調査メモ」参照。）

調査結果の入力作業は、2000年は調査団メンバーが実施したが、2005年はホーチミン市人文社会科学院女性科学センターに依頼し（『百穀社通信』第17号第1章、岡江恭史・大野美紀子・小川有子「2005年ソムBアンケート概要」を参照）、2010年はベトナム学・科学発展研究所の大学院生に依頼し（第1章「2010年ソムB全戸調査の実施概要」参照）、調査団メンバーが直接生データに携わる機会は減っていった。

2015年春の議論の場での議題の1つは、このように調査のデータ収集段階をすべて村人に依頼し、データ入力をベトナムの研究機関に依頼し、調査団のメンバーは調査の最終データのみを手にするものの是非である。この場では、最終データが積みあがってもその統合と分析がなされず成果を出せていない実態を踏まえ、今一度初心に戻り、ベトナムの研究者や学生に協力を仰いで現場での調査に直接携わり、自分たちの手で集めたデータに取り組もうという結論に達した。その後この課題は、村の人々と協働してどのように調査を展開し、成果とするのかという問題として考えていくことになる。

またこの議論の場では、2015年調査の時期を従来通り2015年に実施するのか翌年に持ち越すのかについて話し合われた。2015年の実施には予算を含め様々な準備が間に合わないため、最終的に2016年夏に実施することに決定した。

その後は2016年に実施する2015年調査に向けて、京都大学でミーティングを重ねた。2015年12月には修正を施した調査票を用いてのパイロット調査、2016年6月には調査実施の挨拶を兼ねた予備調査を行い、バックコック調査が再開された。

## 2. 2015年予備調査報告

調査期間：2015年12月23日～25日（3日間）

日本側参加者：柳澤雅之、藤倉哲郎（24日～）、桜井三恵子、小川有子

ベトナム側参加者：Đỗ Kiên 氏（ベトナム学・科学発展研究所）

調査内容：調査再開の挨拶

- 2015年 Xóm B 全戸調査用の修正版調査票によるパイロット調査の実施（4件）
- 合作社の人事・事業に関するインタビュー
- Xóm B ソム長とソム書記への現状に関するインタビュー
- 調査実施に関する注意事項のヒアリング

2015年予備調査では、2010年を最後に調査での訪問がなかったバックコック村に調査再開を伝え、短時間ながら2010年以降のソムの変化について聞き取りを行った。修正協議を重ねた修正版の調査票を用いたパイロット調査は、ソム長やソム書記、その関係者など4件のみでの調査となったが、質問項目の表現や解答集計表の区分、単位の記入方法などについて変更の必要性が明確になった。

またここで収集した調査票を元に、家族構成などの情報をデータ化するとともに、調査票に予めデータを記入し、世帯ごとに調査票を作成することとした。

<覚書：23日昼食会・小学校挨拶、合作社インタビュー>

\*Quyết Thắng 通り工事のため、Chợ Gạo から堤防経由で HTX に入る

\*初日23日は、小学校挨拶と、合作社 Quý 主席、Đính 委員、同時に調査に訪れていた I 氏夫妻と同行のベトナム学・科学発展研究所 Vương Thúy An 氏を交えて昼食会

\*小学校：

7時～10時半、11時に昼食、12時に昼寝、14時から16時半

学校を96年に改築してからこの20年間は午前午後の丸1日の授業を実施

昼休みは40%が学校に残り（bán trú）、残りは帰宅する

Thoa 校長は20年ここで教員をしており、この1月から校長になる。

県から優秀な生徒が集まる特別校だったが3年前から普通校に。

学校はこの夏に門を改修し、食堂を設置した。

費用は4億ドンで、このうち Xóm C 出身の夫婦（最高検察院 Viện kiểm sát tối cao に勤務していた）が1億ドンを寄付。

\*人事

Quý 氏再任（1992年から）

Ban quản trị HTX は法律に従い会社組織として Hội đồng quản trị HTX になった

（主任 chủ nhiệm ではなく主席 chủ tịch、他のメンバーは委員 ủy viên（Đính・Hiền 両氏）今までと違って今後は年金 lương hưu も出るようになる。

社の Ngôãn 氏引退、Hòe 氏書記、Lê 氏主席（Trại Nội 出身）。

Xóm B : Tư 氏（元ソム長）はソム書記、2014年から Phong 氏がソム長。

\*HTX・社内の状況

2015年上水場完成（40億ドン中15億ドンは住民から集める。それまで Lê Lợi 合作社の上水を使っていた）。

村内の道路整備（2013年の土地整理の時に各戸が8m<sup>2</sup>/sàoを拠出。sổ đỏ（土地台帳）は2003年の物を使用していて2013年の物はまだない。） \*追記：2022年時点でまだない

<覚書：24日 Phong ソム長インタビュー>

- ・日本に労働輸出で出るには2億7,000万ドンが必要で、3年で10億ドンを持ち帰る
- ・ソム長は去年12月から。2年半が任期だが bổ nhiệm（代行）なので1年4か月後の今度の4月に再選挙。ソム住民の決定で HTX に任命権はない。
- ・現在のジャガイモ請負 khoán cao は15万3,000ドン/sào（8万ドンは社に、7万3,000ドンは HTX に）支払う。ジャガイモは価格が安すぎて8,000ドン/kg、売れないので今はやらない人が多い。HTX のジャガイモ倉庫は主によそから預け入れがある。
- ・道路のための土地の貢献は14m<sup>2</sup>/sào、うち6m<sup>2</sup>が社で8m<sup>2</sup>がソム、ソムへの貢献はソムによって面積が異なる。
- ・ソム間道路は今年3月に完了、Xóm C 住民のナムディン市在住の息子が5,000万ドンを拠出、人々はそれぞれ思う金額 tùy tâm で寄付を行った。
- ・Dương Lai の橋から Phú Cốc までの道は省が投資を行っているもので、土地を貢献しているのは道路沿いの土地の人のみ
- ・新農村道路建設 làm đường nông thôn mới で3期前(去年後半以降)から社に5万ドン/sào/vụを納入、2020年春までの予定。
- ・7万3,000ドン/sào/vụ は HTX のサービス料として納める。この費用は HTX が会社形式になったことから、4万ドンから始まって徐々に上がり現在7万3千ドンとなった。
- ・浄水場は5年前にでき、1世帯初めての時に170万ドン、おとしは150万ドン/年、今年は30万ドン（パイプの移動のみ）を支払っている。

- ・来年 3～4 月に社が土地の測量を行い、それが終わってから sổ đỏ（土地台帳）が発行される予定
- ・今年からケーブルが引かれるようになり、インターネットに接続している人もソム内にごく数名出始めた。

<覚書：25 日 Tư ソム書記インタビュー>

- ・ソム長の引退年齢は男性 60 歳、女性 55 歳。書記は年齢上限なし
- ・工場労働者へのインタビューは、土曜日はやめる方が良く、時間は夜 18:30 か 19:00 がよい
- ・肥料の tiên nông=bón tập hợp は金額が高いのでまだ 30%くらいしか普及していない

bón túc : 追肥 1 万 5,000 ドン/kg    bón lót : 基肥 1 万 8,000 ドン/kg

Quý 氏からの情報・肥料について

đạm	Ninh Bình, Trung Quốc	9,500 ドン /kg
lân	5-10-3	46 万ドン/ tạ    12 万 5,000 ドン/bao=25kg
Cali	Liên Xô	1 万ドン/kg
vi sinh Sông Danh		2 万 7,000 ドン/bao=10kg
Tiên Nông		12 万 5,000 ドン/bao=25kg

### 3. 2016 年 6 月予備調査報告

期間：2016 年 6 月 21 日～24 日（4 日間）

日本側参加者：柳澤雅之（～23 日）、小川有子

ベトナム側参加者：Đỗ Kiên 氏（ベトナム学・科学発展研究所）

内容

ハノイ

- ベトナム学・科学発展研究所への調査再開の挨拶と調査実施協力依頼  
(Tung 所長・Kiên 氏)
- 人文社会大学東方学科と Xóm B 全戸調査実施方法について打ち合わせ  
(Phan Hải Linh 氏、Võ Minh Vũ氏)

バッコック

- 合作社と Xóm B 全戸調査についての打ち合わせ
- 合作社に基本事項や関連用語について確認
- 最終版調査票によるパイロット調査の実施（8 件で実施し全戸調査に使用）



コックタイン合作社幹部（Quý 氏・Đính 氏）と調査団メンバー

<覚書：21 日 14:40～15:30 ベトナム学・科学発展研究所挨拶>

・この 10 年で稲作をやめる農家が非常に増えている。最初にその現象が起きたのは Thái Bình、続いて Hải Dương、Hung Yên 地域。青年・中年は事業したり街へ働きに出たりし、今は誰も社の幹部になりたがらない状況になっている。地元でも事業を起せば月 300～400 万ドンの稼ぎになるが、稲作では 1 期あたり 100～200 万ドンにしかならない。放棄されるのは主に遠かったり難しかったりする土地で、道路沿いや家に近い土地は手放されていない。

・ベトナム学の学生の状況

現在 30 人近い博士課程の学生が本研究所で学ぶ。

ベトナム学の博士課程があるのはここだけで、修士課程は 3 か所にある。

①ベトナム語・ベトナム学科 Khoa tiếng Việt và Việt Nam học

もともと本研究所が持っていた修士が最近こちらに移行した。

学生は外国人とベトナム人。

②ハノイ師範大学

③社会科学院 Viện KHXH

もともとベトナム社会科学アカデミーViện Hàn Lâm KHXH に宗教学研究や民族学研究所などそれぞれの研究所が所属していた形だったが、構造を変え、一つの Viện KHXH という組織になり、そこで学生が学ぶ形となった。だがそれぞれの研究所は今も元の場所にあるため組織はととてもわかりにくい。

・Viện のプロジェクト

今年末、ハノイ市による委託で、Đường Lâm、Bát Tràng、Văn Miếu において、観光による影響と問題点の改正、今後のアドバイスを行うための調査が開始される。

<覚書：21日 15:30~16:45 人文社会大学東方学科>

・大学の始業式は毎年9月5日。そこから2日ほどはオリエンテーションなどが続き、通常は9月10日前後に本格的な授業開始となる。

・調査は8月28日（日）集合、9月11日（日）解散の日程であるのがベスト。

・協力提議公文 công văn đề nghị hợp tác を作成、そこに本学科作成の書類と参加学生のリストを添付して人文社会科学大学監理委員会？（ban giám hiệu）の Kim 先生に提出する必要がある。

<覚書：22日 10:15~11:45 コックタイン合作社インタビュー>

Quý 氏、その後 Đinh 氏、その後ソム書記 Tư 氏が加わる。

刈入れ・田植えで忙しい時期

\*確認事項

・土地分配：2013年は調整のみで、新規の分配はなし。

・1サオ当たりの納入は、道路については5万ドン/sào/vụ（期限は未定）、8 m<sup>2</sup>/sào である。水路建設については2万ドン/sào/vụ。

・Xóm B ではおよそ30%が工員として働く

・戸番について：誰が作成したかによって戸主が入れ替わったり、番号を振りなおしたりしている。社の戸籍は同じ番号を用いている。

\*vườn について

様々な使い方があり、必ずしも同じものを指してはいないので注意が必要。

人々の意識の中では、thổ canh thổ cư のうちの thổ canh を指す場合と、vườn ngoài đồng といって昔の đất %などを指す場合がある。またそれとは別に、野良仕事に出る際に、家に近いところは ra ngoài vườn と称し、それより遠いところは ra ngoài đồng と称したりする。ここでは vườn という言い方ではなく、thổ canh に統一する。現在 thổ cư（これを thổ cư (đất ở) に統一する）は最大300 m<sup>2</sup>までと決められており、それ以上は vườn になる。vườn に家を建てることはできない。thổ cư は300 m<sup>2</sup>までは拡張できるが、vườn で登記してあるところは、使用目的を変更する届を出す必要がある。

\*学校について

Xóm C にあるタインロイ社の中学校が一般的だが、優秀な子供はナムディン市にある省立の Trần Đăng Ninh 中学校へ行く。

高校は選択肢がたくさんあるが、この地域の子供が行く場所で最も良い学校がナムディン市 Trường Chuyên Lê Hồng Phong で、Xóm B からは2人が通っており、昼食時も滞在 bán trú する。次に良い学校はナムディン市 Trường Nguyễn Khuyến。Gôi にある普通高は Lương Thế Vinh 高校。（学費は不明）

Trường cao đẳng Cầu Giàngにはあまり行く人がいなくなった。大卒でも就職がない時代で、学校を出て工員になればすぐに300~400万ドン/月の稼ぎになるため。

大学はだいたい200万ドン/月の経費がかかる。

\*質問票確認

・田植え時の人の雇い入れ：支払いの方法は面積 theo sào と時間 theo buổi(1công)の2種類がある。

昼食付でも価格は同じだが、昼食を準備するのは一つには人間関係 tình cảm の問題で、もう一つは午後まで引き受けている場合は家に戻れないのでそこで食べる必要があるからである。

・農業機械だけ貸し出すレンタルはあるか：ない

・養豚：養豚をやめた理由としては、肉が売れないため。大規模農場で豚肉が生産されるようになり、豚肉は売れなくなった。また Phân Chuồng に代わって phân bón vi sinh が出たので豚を飼育する必要がなくなった。この5年くらいで減少している。なお現在 Xóm B には農場で養豚しているところはまだない。

・thọ may：Xóm B には現在いない。

・thọ mộc：大工として自分で契約している人は現在3名だと思う。ただ彼らも呼ばれば賃労働に出ることもある。

・Chơi hộ：工業区で働く女性工員たちはやっている。

\*その他

・分戸（世帯を分ける）thách hộ のメリットについて：自立してもらうため。また電気代は使う量が多い家庭ほど高く設定されてしまうので、戸を分ける方が良い。

